

平成 30 年 4 月 5 日

## 平成 29 年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する( )に ○を付ける	・共同研究(○) ・個人研究( )	
研究代表者 (所属・職・氏名)	家政学部 教授 田中淑江	
研究課題名	近世前期子供用服飾品の縫製・染織技法・模様構成に関する研究	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
長崎巖 後藤純子	家政学部 教授 家政学部 教授	調査・研究の実行。報告書の執筆。 調査・研究の実行。報告書の執筆。
研究期間	平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	
<p><b>【研究発表】</b></p> <p>(1) 長崎巖, 裏千家淡交会東京第一西支部講演「名物裂」 平成 29 年 6 月 25 日, 於タワーホール船堀</p> <p>(2) 長崎巖, 共立女子大学博物館講演「ジャパン・ブルー —生活を支え、生活を彩った色—」 平成 29 年 7 月 1 日, 於共立女子大学</p> <p>(3) 長崎巖, きものファッション研究会講演 「着物に関わる言葉」平成 29 年 11 月 5 日, 於 House of Hosoo 「江戸時代の呉服注文」平成 29 年 12 月 14 日, 於株式会社細尾 「友禅染・光琳模様の誕生」平成 30 年 1 月 8 日, 於株式会社細尾 「型染の歴史」平成 30 年 2 月 26 日, 於株式会社細尾 「絞りの歴史」平成 30 年 3 月 25 日, 於株式会社細尾</p> <p>(4) 長崎巖, 町田市立博物館講演「型染めの歴史 —小紋・中形が生まれるまで—」 平成 29 年 10 月 28 日, 於町田市立博物館</p> <p><b>【著作物】</b></p> <p>(1) 長崎巖, 共著『江戸の粹 明治のシック—型染めデザインの美—』, 町田市立博物館展覧会図録, 平成 29 年 9 月</p> <p>(2) 長崎巖, 単著「呉服商雁金屋の会計文書が示すもの—上流武家の呉服注文に関わる顧客・呉服商 間の会計処理について—」, 共立女子大学家政学部紀要, 第 64 号, 平成 30 年 1 月, pp.11~24</p> <p>(3) 長崎巖, 単著「江戸時代初期における武家女性の呉服注文関連資料と呉服注文の実態—慶長七年 (1602 年)『御染地之帳』の記述からわかること—」, 共立女子大学・共立女子短期大学総合文化研究 所紀要, 第 24 号, 平成 30 年 2 月, pp.63~71</p> <p>(4) 長崎巖, 単著「青地の婚礼衣裳 —江戸時代の婚礼衣裳とその伝統の継承—」, 共立女子大学博物 館年報・紀要, 平成 30 年 3 月</p>		

## 研究実績の概要（１）

本研究は、本学所蔵「紅地四季草花模様四つ身」である近世前期子ども物服飾品に使用された縫製、染織技法、模様構成の特徴を明らかにすることと、本作品は経年劣化による繊維の脆弱化がかなり著しく、また欠損箇所が存在するので、修復復元作業を通し、本作品の今後の安全な展示、保存を検討することが目的である。まずはどのような調査を行ったか記載し、後半に修復復元に関する作業工程を記載する。

### 【調査】

(1) 平成 29 年 7 月 17 日～7 月 18 日および平成 29 年 9 月 28 日～9 月 30 日にかけて、島根県立石見美術館所蔵の益田家伝来染織資料の調査を行った。

(2) 平成 29 年 8 月 27 日～8 月 31 日、平成 30 年 1 月 15 日～1 月 18 日、平成 30 年 2 月 12 日～2 月 15 日の 3 回にわたって福岡県吉富町八幡古表神社所蔵の染織品について調査を行った。

(3) 平成 29 年 10 月 28 日～10 月 29 日、徳川美術館・秀吉清正記念館所蔵の染織品について調査を行った。

(4) 平成 29 年 11 月 3 日～11 月 5 日にかけて、京都国立博物館、京都文化博物館、細見美術館所蔵の近世染織品について調査を行った。

(5) 平成 30 年 2 月 28 日～3 月 1 日にかけて、京都国立博物館、京町屋長江家袋屋所蔵の近世・近代の着物および関連染織品の現物・文献調査を行った。

(6) 平成 30 年 3 月 16 日～3 月 18 日にかけて、沖縄県立博物館・美術館、那覇市歴史博物館、浦添市美術館、首里城における近世染織品および関連資料調査を行った。

### 【修復復元に関する作業工程】

本学所蔵「紅地四季草花模様四つ身」の修復復元工程について述べる。

#### <作品の模様構成の検討>

・5 月 近世前期の小袖の模様構成と本作品の模様構成の比較検討を行った。

その結果、左右後身頃、左前身頃は模様がつながることが判明し、右前身頃、両袖、衿と両肩山、身頃裾が欠損していることが明らかとなった。

#### <修復・復元に関する調査及び打ち合わせ>

・6 月 修復に必要な修復裂及び修復裂の色検討を行った。

修復裂：絹羽二重

染色に関する決定事項：修復箇所→損傷個所に合わせて色の異なる修復裂を数種類染色する

欠損箇所→欠損箇所に合わせて欠損布を染色する

※染色に関しては以下の日程で作業を進めた

#### <修理裂の染色>

・9/5～10/6 試し染め

・10/15～1/31 本染め

#### <欠損部裂の染色>

・9/5～11/3 試し染め

・2/14～2/22 本染め

#### <修復用糸の染色>

・9/15～21 試し染め

・10/10 本染め

#### <使用した染料>

・デルクス染料（酸性染料）、田中直染料店  
オレンジ F-GR、グリーン F-3GN、B エロー-MGL、  
ダークブロン F-RL、ブロン F-2G

## 研究実績の概要（2）

### <修復作業>

- ・7月～8月
  - 1)作品の縫い合わせを解き、7つのパーツに分けた
  - 2)作品調査1（染織技法・模様など）
  - 3)作品調査2（作品のそれぞれのパーツの寸法、修復箇所）
  - 4)加湿整形（作品の皺を伸ばし、地の目を整える）
- ・9月～3月
  - 5)作品の裏側から修理裂を当てた
  - 6)作品の表側からカウチングステッチにより損傷個所を補強、固定した
  - 7)作品の欠損箇所に欠損裂を当てた
  - 8)作品7パーツすべての裏側から補強のため裏打ちを行った

### <仕立て>

- ・3月
  - 1)各部寸法の決定（寸法不明個所は同時代の作品を調査し参考にした）
    - ・白地草花模様縫箔（東京国立博物館蔵 桃山時代 重文）
    - ・紺地菖蒲菊桐模様縫箔（松坂屋コレクション 桃山時代 重文）
  - 2)表地、裏地の標つけ
  - 3)表地、裏地を縫い上げ裕仕立てにした

### 【結果】

本研究により本学所蔵「紅地四季草花模様四つ身」は、染織技法の刺繍、縫箔、練緯地、模様構成の肩裾模様、身幅の広さ、衿下、衽下がりの長さなどから桃山時代の特徴を示す作品であることが明らかとなった。また本修復作業を通し、本作品は補強され、今後の展示、保存に耐えうる状態になった。しかし、損傷状態が著しく、繊維自体がかなり脆弱化しているので展示は期間を短くする、または平置きなどの方法をとることが望まれる。